

裏地素材がスカートの着心地と活動性に及ぼす影響

○川端博子*・小宮山 瞳**・鳴海多恵子**

(*都立短大、**東京学芸大)

(目的) 裏地をつける目的として、形態の保持、着脱性や肌触りの向上、すべりによる動作時の拘束性の減少などがあげられる。表地素材の多様化の中で、伸縮性素材の利用が増えているが、これに伴い、伸縮性を有する織物構造の裏地が開発されている。本研究では、伸縮性能の異なる表地に適した裏地の選定に関する知見を得ることを目的とし、タイトスカート为例に、裏地の有無と素材の違いが着心地へ及ぼす影響を明らかにするとともに、動作分析により活動性への影響について調べた。

(方法) ①裏地に、従来型のポリエステル、キュプラ裏地、伸長性織物裏地として、交織ストレッチ、1wayストレッチ、2wayストレッチを用いた。5種類の裏地で作製したスカートの着心地(すべりの良さ、動きやすさ、肌触りのよさ、好ましさ)を、15人の被験者の一対比較により判定した。②伸長特性の異なる織布と編布を表地に用い、ポリエステル裏地つき、2wayストレッチ裏地つき、裏地なしの3種のスカートの着心地について①と同様、官能検査を行った。③5人の被験者による着用実験を行い、動作の分析から裏地の性質が歩行に及ぼす影響について計測した。

(結果) ①裏地の好ましさに関する平均嗜好度は、キュプラ、ポリエステル、2wayストレッチの順で高い評価を得た。従来型のものは、滑りやすさと肌触りの評価が高く好ましいとされたのに対し、伸長性に優れる裏地は、滑りや肌触りの評価は低いながら、動きやすいため好まれた。②伸長性の少ない表布のスカートでは、滑りのよい裏地が好まれたが、編布のスカートでは、伸長性のある裏地が好まれた。いずれのスカートも裏地つきを好ましいとする傾向がみられた。③動作分析から、編布のスカートに高伸縮性を有する裏地をつけることで、快適な着用感と活動性を保持できることが示唆された。